

# 自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## 記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目( 1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目( 88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	大口めぐみの里
(ユニット名)	二号棟
所在地 (県・市町村名)	鹿児島県大口市曾木480番地
記入者名 (管理者)	橋口るみ子
記入日	平成 19年 07月 11日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所として、質の確保と向上を目指し家庭的な環境と地域との交流を含めた理念を作り上げる。		平成18年度改正後の見直しができずに思われる。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼後、毎日、職員で理念の唱和を行い日々のサービスの提供場面、声かけ、態度や記録等の中に理念が反映されている。		ミーティングでは、理念を掘り下げて職員全員で話し合い具体的なケアについて 意見の統一を図っている。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	事業所として、果たそうとしている事について、家族会の中で話し合い。パンフレットやホーム便りの中で常に広報、理解に頂ける様に工夫している。		地域の集まり等に参加した時などに事業所の実践を伝えようとしている。
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常の挨拶を交わしたり、回覧板を回したり、野菜の差し入れ等、ふれ合う機会が多い。		数多くの方々に気軽に訪問に頂ける様にさまざまな工夫が必要と思われる。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	防火用水路等の清掃、草払い等、地域の清掃活動に参加協力したり夏祭り他行事等の参加の呼び掛けを行い細かい交流を図っている。		自分たち職員の方からも、出かけて行き参加する形もつくっていききたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	地域の会合、研修会に関わったり、来訪者の方への介護のアドバイス、研修生、ボランティアの受け入れ等、認知症ケアの啓発に努めている。		地域の方々の話を聞く機会が少ない様に思われる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	職員のミーティング、勉強会を開いてサービス評価の意義や目的を職員に伝え、意見交換を行い自己評価に取り組みサービスの質の向上につなげるようにしている。		外部評価の結果は、ミーティング等で報告され その改善向上に向け努力している。
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	2ヶ月に1回行われており、双方とも 意見交換検討事項や経過などを話し合い。市町村の担当の方に聞いて、解決を図り 家族会、職員とも一緒になり、課題解決に取り組み その内容は報告し、意見をもらうようにしている。		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	地域密着型のサービス向上に向け、事業所の実績やサービスの取り組み等を報告、意見交換を行っている。		参加してはいるが、もう少し市職員や利用者との交流を図って頂きたいと思う。又、話し合われた事が活かしている様 職員への浸透も行って行きたい。
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	勉強会を開き、職員の理解を深める様にしており、対応が必要な利用者がある場合アドバイスをを行い、支援に結びつけている。		勉強を繰り返すを行い、職員の理解を深め 又、研修等の参加で 情報提供をしていく。
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	ミーティング、勉強会の中で虐待防止について周知徹底すると共に 広く意見を求め、事業所内での場面を想定し 見過ごす事がない様にしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>利用料金や医療連携体制等、詳しく ていねいに説明し、同意を得ている。又、利用者の状態変化により 契約解除、退所に至る場合は家庭等と対応方針を相談する様にしている。</p>	<p>契約に関し、一通は家族へ同意書と一緒に手渡し読んで頂いた上で 理解納得して頂ける様にしている。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>無理矢理の介護ではなく、利用者の立場に立ち 意見を聞き、不安、意見等は話し合い記録に残し 特定の職員の中に埋もれない様にしている。</p>	<p>利用者一人ひとりの意見を聞ける時間が、現在では難しいので ゆとりの時間を取り入れたい。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月1回のホームだより、家族便りや電話等で定期的に現在の様子を報告している。金銭面については 出納伝票、出納台帳等に記載しており、家族には来訪時 見て頂き、確認後にサインを頂いている。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族の面会時や家族会等で、常に問いかけ何でも話して頂ける様な雰囲気作りをすると共に 出された意見等については、代表者より 伝えられサービスの質の向上と、問題の解決に向け ミーティング等で話し合い 努力している。</p>	<p>家族からの不満、要望、苦情等の対応で終わらず。その原因(発生要因)を探り、課題を検討し、質の向上を目指す努力をしていく。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月1回のミーティングの中で意見交換を行い、意見、要望を聞く様に心がけているが 不満、苦情は言いがたい事もありすべての件を把握されていないと思われる。</p>	<p>職員の意見、要望をもう少し取り入れて欲しい。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>日中から夜勤帯、又 その逆の場合でも 利用者一人ひとりの状態について、申し送りを行なっている。又、利用者の変化 必要に応じて職員の調整対応ができるシステムを作っており、職員の協力も得られている。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>基本的に各ユニットの職員は固定化し、移動については最小限にとどめ 顔なじみの職員によるケアを目指している。又、その際でも 職員は常に接触し 顔見知りになって利用者のダメージ軽減に努めている。</p>	<p>もっと各ユニットの交流ができて異動に対しての利用者の不安がない様にしていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<b>職員を育てる取り組み</b> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修には、職員の希望をつのり、できるだけ多くの職員が参加できる様にしており、その内容は、ミーティング等で報告し共有する様にしている。	事業所で、開催される研修にはなるべく全職員が受講できる様にしている。報告が徹底されていないのでミーティング時にさらに伝達を図って行きたい。
20	<b>同業者との交流を通じた向上</b> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホーム見学、事例発表等の研修会を通し、他の施設のスタッフの意見や体験を聞き、毎日のケアに活かしている。	他の施設を見学したり、意見交換の機会を作り、サービスや質の向上を目指す為の学習会ができればいいと思う。4月より、地区のグループホームのネットワークが作られる為、全職員の勉強会や交流の場として活用していきたい。
21	<b>職員のストレス軽減に向けた取り組み</b> 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩室はなく、わずかなスペースで利用者を見守りながら休憩している。気分転換には、なっていないと思われる。	
22	<b>向上心を持って働き続けるための取り組み</b> 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	就業規則は、作られており、有休もとれる様になっている。又、希望休を取り入れた勤務表作りがされている。職員の資格取得に向けた研修会等の参加も支援、配慮されている。	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<b>初期に築く本人との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人の求めている事や不安を良く聴き、理解を深めコミュニケーションを図り、信頼関係を築く努力をしている。	
24	<b>初期に築く家族との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人と同様、家族の話をよく聴き状況を把握する事で、お互いの信頼関係を築く様、努力している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人や家族のさまざまな状況を良く聴いて必要とされるサービスについて話し合い。その中で、信頼関係を作り乍ら安心して利用して頂ける様 支援する。</p>		<p>相談の時間をもう少し ゆっくりととれる様 工夫していく。</p>
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人、家族が希望、必要とするサービス利用ができる様に徐々に職員や他利用者との交流雰囲気に慣れる事で サービス利用に向けて工夫し支援している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>一緒に過ごす中で、家庭的な雰囲気を作り 介護する中で不安や喜びを共感したり、昔の話を聞いたりしながら 支え合う関係作りをしている。</p>		<p>支援する側、される側という意識を持たず お互いが協働しながら和やかな 生活ができる様に声かけをしていきたい。</p>
28	<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>電話や面会時に、利用者の日々の暮らしぶりや職員の思いを 伝え 家族の情報を頂き乍ら、本人を支えていくための協力関係を築いている。</p>		
29	<p>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	<p>施設の行事や普段の面会の時、外出、外泊の時など 本人の体調を考慮し、家族と本人と一緒に過ごす時間を作る事で より良い関係作りを支援している。</p>		
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>地域に暮らす馴染みの知人や友人の方に、面会に来て頂いたり希望により 行きつけの美容院に同行するなど、これまでの生活習慣を大切に支援している。</p>		
31	<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	<p>利用者同士の良好な関係作りの為、職員が調整役となり コミュニケーションを図り乍らトラブル防止に努めている。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	行事等のお誘いをしたり、家族の相談を聴くなどしながら いつでも遊びに来て頂ける様、声かけし継続的なつきあいを大切にしている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の関わりの中で表情や言葉から現状の把握に努めている。又、失語症の方にも 毎日声かけを行い、一般状態など利用者本位に検討している。		本人の訴えを、いつもの事と聞き流さず 真剣に聞き何を要求しているかを知る努力をする。又、意志疎通が困難な方には、家族や関係者から情報を得る様にする。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	それまでの暮らしぶりについて、家族より情報が得られる事が多いが それに加え 本人との関わりの中でこれまでの経過について 把握に努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	家庭や関係者の情報のみにとらわれず、利用者一人ひとりの生活習慣の把握に努め その行動や動作から全体像をとらえる様に 努めている。		できない事に眼を向けがちだが、できる事にも注目し その方を把握していきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者が自分らしく暮らせる様、家族やスタッフ間で話し合いを持ち 何が必要か利用者の立場に立って介護計画を作成している。		事業所以外の関係者の意見を求め、課題となる事をスタッフ全員で 話し合い介護計画の作成に活かしている。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員が記録する利用者の状態変化や状況に応じ、家族や必要な関係者と話し合い見直しを行う 努力をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>介護計画に沿って実施されているか、それで どうなったかの評価や利用者の言動、エピソード等個々のケア記録に残し それをもとに介護計画の見直し、評価につなげている。</p>		<p>得られた情報については、職員間で常に共有し 記録に残している。</p>
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>近隣の高齢者が、その状況に応じてショートステイを利用されたり、又 利用者本人の状況に応じて介護保険のサービスに加え、自主サービスを活かし通院や外出、外泊など 柔軟な支援をしている。</p>		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	<p>地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>地域生活を継続していく為に、本人と関係のあるボランティア個人 又は、団体や民生委員を把握しており 又、折りに触れ周辺施設への働きかけやボランティアの協力を呼びかけている。</p>		
41	<p>他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>			<p>必要に応じて、事業所以外のサービスを受けられる様 外部ケアマネジャーや関連施設等と検討中である。</p>
42	<p>地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>困難事例や事業所内では、解決できない問題について 地域包括支援センターと協働しながら、本人本位の支援につなげている。</p>		
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人や家族の希望する医療関係に、継続して受診するよう。又、事業所との関係を築き 利用者の状態変化に応じて、休日や夜間でも適切な医療が受けられる様 支援していく。</p>		



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	脳神経外科医、精神科医等、利用者の状態に応じ 受診の際、治療及び対処方法等 個々の利用者に沿って助言や指導を頂き支援している。		提携医療機関と看護職員は、常に連携対応できる体制を確保している。
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	事業所には数名の看護職員が配置されており、日常の状態変化や健康管理等 確認し合い24時間対応、利用者の支援に活かされている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院の際、退院に向けての治療方針等を説明して頂き なるべく早い時期での退院に向け、情報交換をしながら退院に備えて連携をとる。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合に備え、本人や家族の意向を踏まえ 医師、職員が連携をとり、全員で方針を共有している。		終末期に入った時、どういう対応をするか 入所の際、意志確認を行い日々変化していく中でさらに 何回か検討を重ねていく様 努力していきたい。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	日々検討を重ね、利用者が重度となっても安心して穏やかに、最期を迎えられる様 家族や医療機関、スタッフ共にチームとして全体で支援していきたい。		重度化に伴う意志確認書を作成し、事業所が対応できるベストのケアについて 職員全体で話し合い家族の気持ちに、充分な対応ができる様 工夫する。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	適切な情報を提供し、住み替え後も環境の変化によるダメージが最小限になる様 本人が不安なく、今まで同様の満足のいく介護が受けられる様 支援する。		これまでの暮らしの継続性が、損なわれない様 工夫、支援していきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない</p>	<p>個人のプライバシーに関する事など、他人に話したり利用者が傷つく様な言葉かけをしない様 朝礼やミーティング等で話し合い 対応の徹底を図る。</p>	<p>利用者個人の尊厳を損なう事なく、個人のプライバシー保護について、ミーティングの中で話し合い職員の意識向上を図り 徹底する事に努力する。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>表情を表せない人など、利用者一人ひとりに合わせた対応の仕方や わかり易い説明をして決定は自分で、できる様な場面を作る。</p>	<p>職員は利用者の日々の生活の中で、希望や嗜好物等充分把握しているが確認を怠る事なく ゆとりを持って選択できる様 支援していく。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>基本的な一日の流れはあるが、利用者一人ひとりの個性を重視しながら その時々体調や気分に合わせて 見守り介護を行っている。</p>	<p>決められた一日のスケジュールを利用者に、押しつける事がない様 職員同士で工夫する。又、面会については体調等、支障がなければ自由である。</p>
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>利用者の希望する理美容室へ行ける様、支援し又 外出や外泊 行事の時は、本人の好みおしゃれができる様 支援する。</p>	<p>利用者一人ひとりの個性や好みを重視し、職員と一緒におしゃれを楽しめる様 工夫、支援していく。</p>
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>季節の食材を取り入れた献立を工夫したり、利用者に食材の下ごしらえを 手伝ってもらったりしながら本人の嗜好を考慮し、食べられない物は別メニューに切り換える等 工夫、支援を行っている。</p>	<p>食事はゆっくり楽しめる様気配りし、メニューや食材は利用者本位に考える。又、食事療法の必要がなければ醤油など好きな物を使えるようにしている。 自分のお膳だけでも台所へ運べる様 声かけする。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>職員は利用者個々の好みの把握に努めており、お酒やその他 状況に合わせ他者の迷惑にならない様 日常的に出せる工夫をしている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	職員は利用者一人ひとりの排泄パターンを把握しており、利用者のペースに合わせ 生活リズムに沿った声かけ、誘導を行いトイレでの排泄ができる様 支援する。		昼間はリハビリパンツを外し、尿とりパットで対応している。排泄の失敗があっても、さりげなく処理し 本人を傷つけない様に気配りする。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	転倒などの事故防止に気を付け、利用者一人ひとりの状態に合わせて ゆっくり安心して入浴できる様 支援する。		入浴を拒む方へは職員の声かけや対応の仕方を工夫し、又 入浴のできない方へは、体調に合わせて 清拭、足浴やドライシャンプー等を実施している。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の活動(面会、通院、行事参加等)後の休憩を考慮している。昼夜逆転のない様、レクリエーションを取り入れたり声かけをし 夜間の睡眠がとれる様にして、場合によっては主治医と相談の上 眠剤等の処方をしてもらっている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者個々の力を発揮できる様に、洗濯物のたたみや野菜の下ごしらえ、雑布の裁縫等の作業をして頂いている。		利用者一人ひとりの潜在している記憶やできる力を、活かして暮らす事で本人が 楽しく生きる事への支援をしていきたい。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力を得て少額のお金を手元に持って頂き、職員同行の際には 時々買い物をする機会を作る様、努めている。お金を持たない方は、事務の方で預かっている。		自分の財布から、お金を出す事で社会性の維持につながる様 支援する。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の体調を考慮しながら、職員の付き添いで外出したり歩行困難な方には 車いすを利用して外出の支援をしている。		園庭の散歩でも、季節を肌で感じてもらうようにしている。又、隣接するサービスセンターの交流も 行っていきたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者の体調を考慮しながら、季節や気候により公園などへ出かけたり 車いすを利用して外出を支援したり、又 職員とドライブに出かけるなど、柔軟に対応している。		遠方への外出も計画を立てて行っていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の協力のもと本人が、希望されたら時間を考慮して利用者本人と電話で会話して頂く様 柔軟に対応している。		家族や知人の方からも時々利用者へ、電話がきて会話されている。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間に制限はなく、いつでも気軽に面会ができ利用者本人の居室でゆっくり過ごして頂ける様 雰囲気作りに努めている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを目標としており、ミーティングや勉強会の中で 職員同士話し合い共有認識を図っている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	室内や玄関に鍵はかけず、チャイムやセンサーに頼る事なく職員の見守りを徹底し、外出しようとする利用者には さりげなく声かけし後から、安全に注意しながらついていく様にする。		利用者一人ひとりの癖や傾向を把握する様、心がけ近所の方にも 理解を求めて緊急の場合は 連絡して頂く様 お願いします。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は常に利用者の所在を把握しながら、居室ですぐ利用者には 声かけて職員同士連携を図っている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状況に合わせ、刃物、洗剤、薬品等カーテンで目かくしたり扉のついた所の定位置に 保管し常に確認しながら、危険防止に努めている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故を未然に防ぐ為、ミーティングや朝礼時確認を徹底すると共に 事故発生時のマニュアルを職員全員が確認する様にして、常に 事故防止に向け取り組んでいる。		一人ひとりの事故発生しやすい状況を予測し、その危険を回避するべく方法について 職員全体で取り組んでいる。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署の指導のもと、救急処置法の講習を受けたり 緊急時対応のマニュアルを作成し、職員の共有認識を図っている。		ミーティングや勉強会等で職員同士で確認し、常に対応できる様に 確認し合っている。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、防災訓練、緊急避難等の講習を受けており 災害に備えた備品の確認等 地域の方の協力も頂きながら 日頃から、防災に向け取り組んでいる。		すでに大きな自然災害を体験しており、その時の経験をふまえ 職員の中に 災害時の対応に対する心がまえはできている。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて 家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	家族、スタッフ間で起こり得るリスクについて話し合い、個別的な見直しすると共に 施設、抑制など行わず人間らしく生活が送れる様 支援する事を心がけている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	利用者一人ひとりのアレルギーの有無や体調の変化その兆候を、見逃さない様に毎朝 バイタルチェックを行い、記録に残し異常の早期発見に努め すぐ対応できる様にしている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬剤の内容を、職員が介助、見守りを行い症状の変化にも すばやく対応できる様 工夫している。		薬剤には、わかり易く名前を書き入れ 服用については、利用者の本人確認を行い、間違いのない様に、配慮している。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	利用者一人ひとりの日々の暮らしの中で、食事や排泄の状況を把握し 食材の工夫や水分補給、運動、歩行運動の働きかけを行い 排便チェック表をつくり支援している。		自然排便に向け、時間毎の声かけや誘導を行い、トイレでの排便ができる様 取り組んでいる。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯みがき、義歯洗浄を行い、自分でできない方については 職員が介助口腔ケア等を行っている。		歯科医師の口腔ケアに関する、講習を受けている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの嗜好や季節の食材を、取り入れながら栄養バランスを考えた献立作りを行っている。又、食事の摂取量や水分補給等 把握しながら その状況を職員が、共有して記録にのこしている。		栄養士の指導を取り入れていきたい。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	利用者、職員共に 定期的に予防接種を実施しており、手洗いうがい 消毒は、こまめに行う。又、感染症にかかった人には 早目の対応を行って 流行を最小限にとどめる様になっている。		来訪者にも、うがい、手洗いをお願いして 外部よりの感染防止に努めている。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所用品、調理器具は 常に、殺菌、消毒を行い。食材の在庫確認を実施して、早目に調理し 冷蔵庫内の食品についても随時、確認を行って 衛生管理は細心の注意を払っている。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	日中は常に、門扉は開放し 玄関回りには季節の花を飾り、明るい雰囲気作りに努め いつでも気軽に訪問して頂ける様工夫している。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の共用の空間には、季節感のある花等の飾りつけをし 不快な物音、大声を出さない様にして トイレの消臭に心がけ 居心地よく生活して頂ける様 工夫している。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関に長いす、廊下にソファを置き 一人でのんびりされたり、職員や他の利用者と一緒に ゆっくり 会話を楽しめる様なスペースをつくり、常にコミュニケーションを図れる様 工夫されている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で、使われていたテレビや時計など小物を 持ち込みができ希望により、写真を掲示したり 冬は床にカーペットを敷くなど、家庭的な雰囲気作りで 居心地良くすごして頂ける様 支援している。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	利用者の状況に応じて、天候によりエアコンを使用し 温度調整をしたり、窓の開閉で換気に気を配り、汚物は早目に処理して消臭に努めるなど 利用者が気持ちよくすごせる様に配慮している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は段差のない様、工夫されており 廊下やトイレ等各所に使い易い高さの手摺りもあり。ベッド、テーブル、いす等の高さ調節をして 安全と自立に向けた配慮している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレ、浴室はその場の貼り紙があり 又、居室は人形や花の名札を下げ わかり易く工夫しており、失敗や混乱を招かない様 配慮している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	施設周辺には、菜園、花壇、プランターの植え込みなど 明るい雰囲気作りをし、ベランダでお茶を飲んだり 外の景色を見て楽しめる様 工夫している。		

. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての利用者の
		<input type="checkbox"/>	利用者の2/3くらいの
		<input type="checkbox"/>	利用者の1/3くらいの
		<input type="checkbox"/>	ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="checkbox"/>	毎日ある
		<input type="checkbox"/>	数日に1回程度ある
		<input type="checkbox"/>	たまにある
		<input type="checkbox"/>	ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての利用者が
		<input type="checkbox"/>	利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての利用者が
		<input type="checkbox"/>	利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての利用者が
		<input type="checkbox"/>	利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての利用者が
		<input type="checkbox"/>	利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての利用者が
		<input type="checkbox"/>	利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての家族と
		<input type="checkbox"/>	家族の2/3くらいと
		<input type="checkbox"/>	家族の1/3くらいと
		<input type="checkbox"/>	ほとんどできていない



項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

施設内の各所には、季節の花を置き飾り物をして 又、居室、トイレ、ホールを中心に 清掃を充分に行い、清潔感のある明るい環境の中で 安心して快適な生活が送れる様、家庭的な雰囲気作りに努めており いつでも、どなたでも 訪問して頂ける様にしている。又、利用者の方の健康管理には、常に 気を付け異常があれば、かかりつけ医や協力医と連絡をとり 素早い対応を心がけている。管理者、職員も明るくて 家族の方が気軽にはなしかけたり、相談して頂ける雰囲気作りに配慮している。職員の間でも、自分自身が認知症になったらぜひ入所したい 又、知人や親戚にも入所をすすめたくないと 話している。